

## 研究成果

# サヤエンドウの白色防風ネット挟み込み被覆栽培による ウラナミシジミの防除効果

～ネットの張り方をかえてみませんか～

### 1. はじめに

2013、2016年に日高地域の年内どりエンドウ産地では、ウラナミシジミによるさや被害が多発した。ウラナミシジミは成虫がエンドウの花付近に産卵し（図1）、幼虫がさやに食入する。そこで、産卵を抑制し、さや被害を防ぐため、白色防風ネット挟み込み被覆栽培法を考案し防除効果を確認した。



図1 花に産卵する  
ウラナミシジミ成虫

### 2. 試験方法

2015年8月20日にサヤエンドウ‘紀州さや美人’を播種し、直ぐに支柱および誘引ネットを設置し、白色防風ネット（目合い4×3.5mm、150cm幅）2枚で誘引ネットごと挟み込むように被覆を行った（図2）。ネットの高さはエンドウの生育にあわせて上げ、11月19日には支柱を

延長し160cmとした。対照区は1mm目合い防虫ネットによるトンネル被覆を9月15日まで行い、その後は無被覆とした。

### 3. 結果

挟み込み被覆区は、対照区に比べてウラナミシジミの花への産卵抑制効果が高く（データ省略）、さや被害を抑えた（図3）。

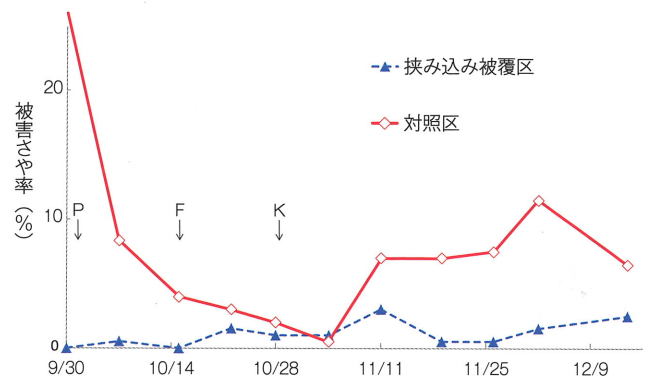


図3 挟み込み被覆によるさや被害防止効果

↓ 農薬散布(対照区のみ) P=プレオフロアブル、  
F=フェニックス顆粒水和剤、K=コテツフロアブル



図2 白色防風ネットの被覆方法

### 4. おわりに

現地慣行である対照のトンネル被覆栽培では、播種1か月後に被覆を除去しなければならないため、ウラナミシジミを防除することができない。白色防風ネット挟み込み被覆栽培はウラナミシジミの飛来が始まる開花期以降の防除が可能であり、またヨトウムシ類の防除効果も期待できる。

(環境部 岡本崇)